

うえのはら

上野原縄文の森展示館及び埋蔵文化財センター建設事業

受賞機関 鹿児島県土木部建築課

はじめに

上野原遺跡は、鹿児島県国分市の台地上に位置する「国分上野原テクノパーク」の建設に伴い発見された遺跡である。

「上野原縄文の森展示館」及び「鹿児島県埋蔵文化財センター」は、国内で最大規模かつ最古級の定住化した集落跡である上野原遺跡を、歴史文化遺産として保存し、縄文の世界と向き合い・ふれあい・学び・親しむ場として整備された「上野原縄文の森」の中核施設として建設された。

施設概要

施設名称：上野原縄文の森展示館

鹿児島県埋蔵文化財センター

工事期間：平成12年12月～平成14年2月

構造規模：上野原縄文の森展示館

鉄筋コンクリート造一部鉄骨・

木造2階建て 3,070.87㎡

鹿児島県埋蔵文化財センター

鉄筋コンクリート造一部鉄骨・

木造2階建て 4,999.64㎡

工事費：3414百万円

施設の特徴

出土した縄文土器に刻まれた逆S字の渦文様をモチーフに、2つの建物と連絡橋からなる施設を一筆書きのように緩やかに繋いだ構成としている。2つの建物は、自然に隆起した丘をイメージさせるよう



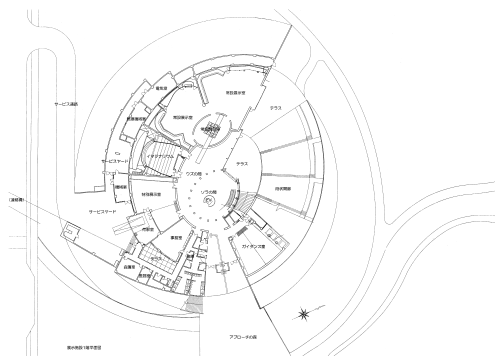
エントランスホール（埋蔵文化財センター）



ソラの間（展示館）



ウズの間（展示館）



新設した玄関と増築部分

バンクで覆い、森との一体感を持たせ、また、両施設を繋ぐ連絡橋は、狩猟に使う弓をシンボライズしたデザインで桜島と霧島を結ぶ軸線上に設けて、空からの景観も含めて施設全体が縄文の風景を形成するよう意図している。

内外装材に石や土等の自然素材をできるだけ採用するとともに、左官仕上げ等、手作りの雰囲気漂う仕上とし、縄文の森との一体感・調和を図っている。また、縄文時代の「連結土坑」にヒントを得たクールチューブシステムやルーバーによる日射の制御、バンク盛土による断熱等、自然エネルギーの制御にも配慮している。

平面的にも立面的にも曲面を多用し、異種構造を併用するなどの複雑な設計に対し、現場では設計図書の詳細検討と施工精度の管理徹底がなされ、全体として設計意図どおりの建物を完成できた。